



# 学 藝

令和7年(2025年)12月／第155号

— 特集：支部からの報告、小金井祭 —



令和7年度 第3回支部長会



小金井祭の幟

- ◇ 巻頭言 理事長あいさつ 全国代表者会議に思う……………理 事 長 茅 原 直 樹… 2
- ◇ 副理事長 時代の風潮……………副理事長 貝 原 俊 明… 3  
教育の継続を考える……………副理事長 野 口 敏 朗… 3
- ◇ 支部紹介 中野区・杉並区・北区・葛飾区・三鷹市・青梅市・調布市・福生市・武蔵村山市・奥多摩町・  
日の出町・大島町…………… 4
- ◇ 研究発表のお知らせ 中央区・目黒区・町田市・国分寺市……………10
- ◇ 第3回支部長会報告 ～新年祝賀会にむけて～……………14
- ◇ 副校長の活躍 豊島区・清瀬市……………16
- ◇ 若手教員の活躍 大田区・昭島市……………17
- ◇ 本部だより……………会計部・総務部・研修部・調査部・広報部・お知らせ…18
- ◇ 我らのキャンパス ～第73回 小金井祭～……………20



## 全国代表者会議に思う

理事長 茅 原 直 樹

十一月一日土曜日、三連休初日、一般社団法人東京学芸大学同窓会を代表して令和七年度辟雍会全国代表者会議に出席してまいりました。午後一時からの開会に合わせてお昼過ぎに大学にお邪魔したのですが、小金井祭は、午後三時からスタートということで、学生の皆さんは、最後の準備に忙しそうでした。お客様の姿はちらほらで、まだ賑やかな学園祭という雰囲気はありませんでした。とはいえ、会議室には、全国の辟雍会支部代表の皆様が次々にお集まりになっていました。宮崎、佐賀、岡山、鳥取、福井、新潟、長野、神奈川、千葉、栃木、宮城、青森、北海道、大分、香川、兵庫、静岡の各支部代表の方々から活動状況についてお話を伺うことができました。各支部ともコロナ禍を経て、ようやく懇親会等が開けるようになったものの、共通の課題は、個人情報保護の関係もあり、会員名簿の作成が困難であることでした。特に若い会員が卒業後、どの県に就職したのか分からず、支部の集まりの案内がなかなかできないとのことでした。このあたりは、本会においても同様であると感じた次第です。

全国の同窓の皆様は、もちろん教職に就いておられる方が多いのですが、そうでない方もおられます。「〇〇県では、県警の本部長が同窓生で、支部の集まりにも来てくれます。」とか、「私どもの支部は、公立学校の教員、私立学校の教員、教員以外の方がそれぞれ同じくらの割合で所属しています。」などの声が各支部の活動報告の中で聞こえてきました。

また、辟雍会馬淵貞利会長からは、そのご挨拶の中で全国に支部設立を目指したいというお言葉がありました。

さて、私ども一般社団法人東京学芸大学同窓会は、辟雍会や大学の皆様からは、「二社」「一般社団法人」のこと）あるいは、「東京学芸大学東京同窓会」などと呼ばれることがあります。東京都支部ではありません。

同窓生にも県警本部長がおられるとのことですから、警察組織を例に挙げますと、本会と辟雍会の関係は、警視庁と警察庁の関係に似ているのかもしれませんが。警視庁は、首都東京の治安維持のために一八七四年（明治七年）に日本最初の警察組織として設置されています。それより遅れて〇〇県警察部などが他の道府県に設置されました。戦後、警察法に基づき警察庁が出来て、今の〇〇県警察本部などとなりました。警視庁は警視庁のまま残りました。

辟雍会のホームページを拝見しますと、東京学芸大学と辟雍会の共催事業「先輩たちのいる学校を訪ねよう！」についての記事が掲載されています。今回は、都内の私立学校が採り上げられていました。もちろん都内でも多くの私立学校で同窓生が活躍しておられるのですが、その先生方の所属する支部が存在しないという現状があります。

十一月十四日に行われた第三回支部長会において、各地区の支部長に加え、高等学校支部長の前田先生、監事をお務めいただいている本学副学長の鈴木先生にもご出席いただきました。幼小中高大の学校関係者がそろいました。あともう一步、私学や他の分野で活躍されている皆様との絆をどう結んでいくか、このあたりのところを、支部の皆様と一緒に考えていくのが、私の務めになるかもしれないと考えています。

新年祝賀会でより幅広く、より多くの皆様と同窓の絆を深めたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

## 時代の風潮

副理事長 貝原俊明

新宿の街を歩いていると、まず外国人の多さに驚かされます。インバウンドの影響で上半期は訪日外国人客の数が最多だったそうです。さらに夜の都庁はもともと凄い。毎夜、催される第一本庁舎壁面に映し出されているプロジェクションマッピングを寝ころびながら鑑賞した後、都庁展望台へ。エレベーター待ちの長蛇の列が見られます。刺青の入った大きな体での大声の会話を聞くと怖さを感じますが、訪日外国人による経済効果を考えると複雑な気持ちになります。

勤務校の隣の工事現場には、東南アジア系の外国人の姿も。朝早くから黙々と作業に取り組んでいます。製造業だけでなく介護現場でも働く外国人の数が年々増加しているそうです。少子高齢化が進む日本にとって労働人口の減少は死活問題。そこに日本で技術を学びつつも、わが国を支えてくれていることに感謝です。

私たちの教育現場においても人手不足は喫緊の課題です。産育休や病休による代替教員が見つからず、副校長や算数少人数担当が学級に入ったり、補教体制で回したりして対処

されているのではないのでしょうか。育児・介護休業法の改正は、時代の流れとしてふさわしいと思います。同時に人材の確保なども万全にした改革をすべきだと考えます。学校の人手不足も近い将来、外国人にお願いすることにもなるかもしれません。

新聞を読んでいると生成AIに関する記事がほとんど毎日掲載されています。もちろん内容は有効活用記事から悪用して犯罪となったもので様々ですが、日進月歩の勢いは止まりません。学校現場においても校務処理などで積極的な活用が進められています。これまで膨大な時間をかけてやっていたことが瞬時に片付けられるのは感激です。中学生や高校生は既に学習でも使用していることから、小学生の活用も一層進むでしょう。課題となる情報リテラシーを高める指導を行える人材も欲しいところです。

米国のアマゾン・ドット・コムではAI導入による業務の効率化により一万四千人の人員を削減するとの報道がありました。AI導入により生まれた人材を人手不足解消に繋げられるとよいのですが……。

## 教育の継続を考える

副理事長 野口敏朗

東京学芸大学を卒業し、都立肢体不自由養護学校に採用されました。高校の体育教師を目指していた私にとっては思いもよらぬ赴任でした。当然、障害児教育の知識はほとんどありませんでした。まさに手探りで教員のスタートでしたが、目の前の生徒たちの様々な導きがありました。生徒が私の師匠でした。その後、体育科教員として都立高校に赴任しましたが、養護学校での生徒からの学びは教員としての大きな道標でした。高校を二校経験後の三つの区教委と都教委の勤務では、保育園や幼稚園、小学校、中学校の教育にも大きな関わりをもたせてもらい、現場に戻ってからは中学校長や高校校長の職をいただきました。退職後は、大学教育を経験し、現在、東京学芸大学学生キャリア支援課の特命教授として明日の教師を目指す学生を指導しています。まさに幼・保・小・中・高・大・特支教育とすべての学校教育に関わりをもつことができました。

そうした中で現状の学校教育をの

ぞくと、各学校は、「令和の日本型学校教育」の視点に立っての「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」や「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善、電子機器の効果的な活用を加えた適正な教育活動が進められていると思います。しかしながら、前述した経験をもつ私には、何か大切なものが欠落しているのではないかと思えてならないのです。それは継続性です。小学校は六年間、中学校と高校三年間と、ぶつ切りの教育がなされており、各校種間の子供に対する継続という意識があまり見えないのです。しかし、それができるのが学芸大学同窓会であると考えます。

一人の子どもはぶつ切りではなく、継続的に教育を受けています。幼・小・中・高の教員が集うこの学芸大学同窓会だからこそ、そうした真に継続した教育の実現が可能です。そのために、まずは、中・高の同窓生の参加が増えることを望んでいます。



## 中野区の紹介

変化の波に乗る中野区教育

「子どもの権利」を基盤とした

「子育て先進区なかの」の推進」

中野区は、令和六年五月に新庁舎がオープンするなど、街全体が新たな発展段階を迎えており、教育分野においても、区全体で未来志向の変革を推進しています。

私たちが教育活動の根幹に据えているのは、「中野区子どもの権利に関する条例」です。この理念を踏まえ、「子どもを主体とした学校教育」を基本方針として掲げ、「子育て先進区なかの」の実現を目指し、区立学校・園における教育施策の充実を図っています。

また、中野区では、子どもたち一人ひとりを権利の主体として尊重し、多様な教育活動を展開しています。例えば、「子どもの意見を反映させた教育活動の推進」です。小中学校各校に、子供たちが、自分たちで決めて使つてよい予算を配当していくという取組です。

現在、中野区では「中野区教育ビジョン（第四次）」に基づき、「生きる力をはぐくむ教育の推進」を重点に、教育の質的向上に組織的に取り組んでいます。そして、中野区では、すべての子どもが安心して学校生活を送り、自己肯定感を育めるよう、支援体制の強化

中野支部長 鈴木 淳

（中野区立北原小学校）

を最重要課題の一つとしています。

さらに、区内の教育関係者との連携も進めています。例えば、区立幼稚園、小中学校の校長が合同で出席する定例校園長会を毎月開催し、区の実施策の共有と徹底を図っています。

学芸大学同窓会員にとって、かけがえない絆で結ばれたコミュニティとなることを目指し、区の実施策に貢献できるような取組をしています。

子どもを最優先に考え、幼児・児童・生徒・教職員の安心・安全を確保しながら、この時代の変化に対応し、未来を担う子どもたちの育成に、学大同窓生として培った教育者精神をもって尽力してまいります。



中野区新庁舎 令和6年5月オープン

## 杉並区の紹介

「みんなのしあわせを創る教育」のまち

杉並区は、「人生一〇〇年時代」を見据え、誰もが自分らしく豊かに生きるための教育を推進しています。「杉並区教育ビジョン2022」は、「みんなのしあわせを創る 杉並の教育」を理念に掲げ、子どもも大人も教育の当事者として、学びを通して誰一人取り残されない社会の実現を目指しています。この理念を具現化する「杉並区教育ビジョン推進計画」では、特別支援教育の充実、地域と連携した学校運営協議会の活用など、現場に根ざした施策が展開されています。地域と学校が連携する「学校運営協議会」は全校に設置され、保護者や地域住民が教育活動に参画しています。学校等の教育施設を、生涯学習や人が交わりつながる基盤となる「学びのプラットフォーム」として整備したり、科学体験ができる施設「IMAGINUS」を開設したり、未来を見据えた学びの場づくりに力を入れています。

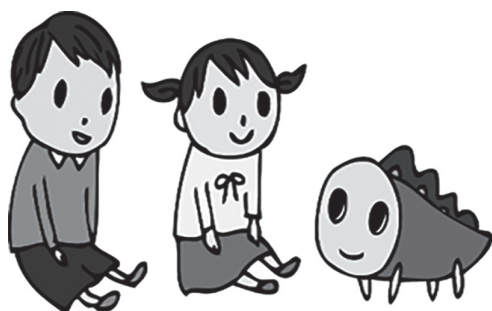
令和七年四月には「杉並区子どもの権利に関する条例」が施行されました。これは、子どもを権利の主体として尊重し、意見表明や参画の機会を保障するものです。条例の背景には、「子ども

杉並支部長 守田 聡美

（杉並区立久我山小学校）

もは、一人ひとりがかけがえない存在である」という杉並区の強い思いがあります。子どもたちが安心して自分らしく育つことのできる地域社会の実現に向け、教育・福祉・地域が連携した支援体制の整備を目指しています。

杉並の教育現場でも、同窓生が活躍しています。教員として、管理職として、行政職として、ボランティアとして、一人一人が教育の当事者として、「子どもたちの未来」を支えています。そして、それは「教員養成の基幹大学」として「教育の未来」を担うという東京学芸大学の理念を体現するものだと思います。これからも「杉並」をよろしく願います。



## 北区の紹介

北支部長 松本 麻巳

(北区立堀船小学校)

北区は、その名のとおり東京都の北に位置し、荒川を挟んで埼玉県と接しています。江戸時代から四季の自然の変化を楽しむことができる行楽地として知られ、歴史や文化、自然を生かした教育資源も豊富です。飛鳥山公園、旧渋沢家飛鳥山邸や旧古河邸庭園、田端文士村記念館、旧岩淵水門など、子どもたちが、実際に触れながら学べる場所が数多くあります。

人口は約三十六万七千人、公立小・中学校の児童・生徒数は、約一万九千人です。公立学校数は小学校三十二校、中学校十一校、こども園は二園です。また、区内には都立特別支援学校が二校あります。昨年度には、新たに小中一貫義務教育学校として「都の北学園」が開設されました。小学校十校、中学校七校に知的障害特別支援学級が、小学校一校、中学校一校、義務教育学校一校の計三校に自閉症・情緒障害特別支援学級が設置されています。日本語指導の学級は、小学校五校、中学校に二校にあります。

北区教育委員会では、「北区教育・子ども大綱」や「北区教育ビジョン2024」を策定し「教育先進都市・北区」のさらなる充実・発展を目指しています。

昨年の十二月に就任され、本学同窓



桜の名所「飛鳥山公園」  
と東北新幹線

生でもある、福田晴一教育長の下、「心の教育・保護者サポート・教員支援・教育DX」を基軸とした次世代の学校像を描き、次期学習指導要領、さらにその先を見据えた取組を推進しています。地域との連携を重視し、豊富な教育資源を活かしながら、子どもたちの主体的な学び、社会性や創造性を育む教育環境の構築を目指しています。

本会理事長の茅原直樹先生は、本区で教育指導課長を務めておられた「北区ゆかりの方」でいらつしやいます。早速、今年度も北支部懇親会にご列席いただきました。

今後ともご指導をよろしくお願いいたします。

## 葛飾区の紹介

葛飾支部長 佐久間 浩一

(葛飾区立小松南小学校)

葛飾区、「よく分からないな。」という方も、この台詞は聞いたことがあるのではないのでしょうか。「わたくし、生まれも育ちも葛飾柴又です。帝釈天で産湯を使い、・・・」は、寅さんの名台詞の一つです。現在も柴又は観光名所の一つとなっています。

さて、葛飾区についてもう少し詳しく紹介させていただきます。本区の世帯数及び人口は、約二十六万世帯、約四十七万人で、区立小学校は寄宿舎併設の特別支援学校を含め四十九校、児童数は約二万人。中学校は二十四校、生徒数は約九千人です。

本区は二十三区の中で、農業が存続している数少ない区のひとつです。百五十世帯の農家が主に小松菜などの野菜類を栽培しています。また、二十三区内四番目の工場集積地で、多種多様な業種が創業し、それぞれの工場がものづくりに誇りと熱意をもち、この貴重な資源や財産を「葛飾ブランド」として全国に発信しています。毎年行われる「葛飾区産業フェア」には小学三年生が参加し、物作り体験などを行っています。

葛飾区の教育は、「かつしか教育推進プラン」に示された「かがやく未来をつくる力をはぐくむ 共に学びあい 支えあうまち かつしか」の具現化に向け、三つの基本方針を定め取

組を推進しているところです。学校給食費の材料費の無償化を本区が先駆的に始めたことは記憶に新しいことと思います。併せて、令和七年度は、修学旅行や一部教材費を無償化にするなど、家庭の教育費軽減を図る施策が始まっています。

また、昨今の自然環境の変化等を踏まえ、「学校外の屋内温水プールにおける水泳指導」の取組が進められ、近隣のスポーツ施設等で水泳の授業を行っています。令和四年度から始まった本取組は、移動手段や指導方法・内容など、学校関係者と民間の水泳インストラクター等で検討し、指導の充実を図っています。

東京学芸大学同窓会葛飾支部では、毎年、六月に総会を開催し、当該年度の取組を同窓生間で確認・承認するとともに、年二回懇親会を開催し、OB・OGの方々との親交を深めています。



京成線柴又駅前  
「寅さんの銅像」



## 三鷹市の紹介

三鷹支部長 高 寄 浩 三

(三鷹中央学園三鷹市立第三小学校)

三鷹市では、五十年以上にわたるコミュニティ行政の展開、市民参加、市民との協働によるまちづくりを実践してきている。このような住民自治の意識の高さや具体的実践を通して醸成されてきたコミュニティのうえに、コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育校七学園が設置され、義務教育九年間を見通した教育活動を実践している。

三鷹市では「三鷹市教育ビジョン2027」を作成し、「コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育」を柱にしながら、個人と社会のウェルビーイング、すなわち自らの幸せな人生とより良い社会の創造に向かって、主体的に「人間力」と「社会力」を発揮する子どもたちを育成することを目指している。学校と地域との協働による「コミュニティ・スクール」を推進するとともに、学校や子どもたちを縁としたつながりを大切にした「スクール・コミュニティ」の創造を目指している。

三鷹支部は、管理職十四名、教員百二名の会員が在籍しており、親睦を深めている。総会後の懇親会や新年会だけでなく、若手研修会にも力を入れている。コロナ禍で途切れた若手研修



三鷹市7学園

会を復活させ、令和五年度はバレーボールのオリンピックを招いた実技研修会、令和六年度は同窓生でもある平松隆行先生を迎えた特別活動の研修会、そして今年度は、本校同窓生でもあり医療教育コーディネーターとして活躍されている松野泰一先生を迎えた特別支援教育研修会を開催した。若手教諭に限らず三鷹市内から毎年五十名以上の参加者があり、先生方にとってもよい学びの場となった。

三鷹支部としては、これからも同窓の輪を大切に、親睦を深めるとともに研修を進めるなど活動を広げていきたいと考えている。

## 青梅市の紹介

青梅支部長 森 田 彰

(青梅市立霞台小学校)

青梅市の小学校には約五千人、中学校には約二千七百人の児童・生徒が通っています。青梅市では、子どもたちに地域の自然や文化を体験的に学ぶ機会を提供するため、「青梅学」という独自の学習プログラムを実施しています。この取り組みでは、市内の豊かな自然や歴史文化に触れることができます。

たとえば、成木地区の森林では林業体験を行い、木々の手入れや伐採の作業を通して、自然の大切さや資源の循環について学ぶことができます。また、御岳山で行われる移動教室では、山の自然を楽しみながらのアクティビティが充実しています。子どもたちは釣りを体験し、自分たちで釣った魚を昼食に焼いて食べることで、生き物や食の大切さを身近に感じます。御岳山の宿坊に宿泊する機会もあり、ただの宿泊体験ではなく、自然環境や地域の歴史文化についてのレクチャーも受けることができます。さらに、神楽の鑑賞もプログラムに含まれており、小中学生が身近で伝統文化に触れることができます。

都心の学校でも林業体験や宿泊体験を行う学校はありますが、青梅市の子どもたちは、自分たちの市内にある自然や文化を、体全体で味わい、学ぶこ



川釣り体験

とができます。移動の負担が少ない分、学習の深さや体験の密度が増し、自然や地域への愛着がより深まります。このような体験を通じて、子どもたちは知識だけでなく、実際に手や体を動かすことの楽しさを学び、地域と自分のつながりを実感することができます。

青梅市の「青梅学」は、児童・生徒にとって忘れられない思い出となり、学びの意欲を育むきっかけとなります。同時に、保護者や地域の方々もその教育の様子を間近に見守ることができ、地域全体で子どもたちの成長を支えています。青梅市ならではの豊かな自然と文化を日常的に学べる環境は、とても魅力的で、青梅市ならではの学びを深めている子どもたちです。

## 調布市の紹介

調布支部長 小 俣 弘 子

(調布市立富士見台小学校)

調布市は、新宿まで電車で約十五分という都心へのアクセスの良さに加え、深大寺などの由緒ある寺院や、多摩川などの自然にも恵まれています。また、「ゲゲゲの鬼太郎」で知られる漫画の水木しげるが住んでいたことから、市内にはキャラクターのミニチュメントなどが設置されています。水木しげるさんの功績をたたえ、命日の十一月三十日を「ゲゲゲ忌」とし、様々なイベントを毎年開催しています。学校給食においても「ちゃんちゃんこ寿司」や「ぬりかべトースト」「目玉おやじゼリ」などが出て大人気です。更に、今年には市制七十周年を迎え、様々な記念事業を行い、市全体が盛り上がっています。

調布市は、人口約二十三万五千人、現在市内には、市立小学校が二十校、中学校が八校あります。今年度で全小・中学校がコミュニティ・スクールとなり、各校で「地域とともにある学校づくり」に取り組んでいます。市の特色ある教育活動として「調布市教育プラン」に則り、四月に行われる「調布市防災教育の日」、十二月に実施する「いのちと心の教育月間」があります。「調布市防災教育の日」は、東日本大震災を教訓として、「命の尊さ」につ



「調布市防災教育の日」の取組

いて学ぶこと、「自らの命は自らが守る」という意識を高め、児童・生徒自身が自助、共助のための必要な知識や行動を身につけていくことを目的として、毎年四月の土曜日に実施されています。

各校で防災啓発講座や「命」の授業を公開したり、避難所運営、引き取り訓練を実施したりして、学校と保護者・地域の方々が一体となった防災教育を行っています。本校では、三年生対象に地域の方による防災倉庫の見学や仮設トイレの設置体験が行われ、地域の方に守られている安心感と同時に、自分の命は自分で守ることの意識の向上につなげることができています。

## 福生市の紹介

福生支部長 中 島 恵 大

(福生市立福生第二小学校)

福生市内には、小学校が七校、中学校が三校あり、令和七年九月一日現在、児童は二千四百四十人、生徒は千五十七人在籍しています。小中学校十校が全てコミュニティ・スクールに指定されており、それぞれの地域の特色を生かした教育活動を展開しています。

福生市は、市の面積がおよそ十平方キロメートルで、都内区市町村の中で五十五番目、さらにその面積の約三分の一が米軍横田基地になっており、とても小さい自治体となっています。そのため、市教育委員会と学校との関係が緊密で、学校の教育活動に、教育長をはじめ、教育委員会の方が頻繁に訪問してくださり、学校の声に耳を傾けてくださっています。

今年度の「福生市教育方針」における学校教育の重点施策の一つとして、「むし歯の予防と治療の励行を通じて、より良い生活習慣の習得支援」が、挙げられています。

ここ数年、福生市では、児童・生徒のむし歯の割合もさることながら、歯科検診の結果報告に伴う受診のお願いに対する関心の低さが課題でした。むし歯になっても未処置である割合が非常に高かったのです。



保健委員会による児童集会  
「歯ッピー歯みがきチャレンジ」の様子

そこで、市内全校で給食後に歯磨きを実施し、むし歯の予防と同時に、児童・生徒自身に「衛生的な生活習慣」に関心をもたせる指導に取り組んできました。さらに各校で、薬品会社主催の「全国歯みがき大会」に参加したり、歯科衛生士を招いた歯磨き指導を実施したりと独自の工夫を重ねてきました。

福生市は、「こどもまんなか ふっさ」という合言葉のもと、教育委員会と学校が手を取り合い、施策とその具現化において呼応し合う関係で、児童・生徒の健全な育成に取り組んでいます。



## 武蔵村山市の紹介

武蔵村山市は、都下市町圏の北部寄りのほぼ中央に位置し、西は瑞穂町、南は立川市、東は東大和市、さらに北は狭山丘陵をはさんで埼玉県所沢市に隣接しています。

市を象徴する狭山丘陵は、市北部を西から東へ続き、この丘陵には村山貯水池（多摩湖）、山口貯水池（狭山湖）、さらに市民の広場、都立野山北・六道山公園があります。

人口は約七万人、市内には小学校が九校、中学校が五校あります。

市内には軌道交通はありませんが、多摩都市モノレールの上北台から箱根ヶ崎間の延伸に向けて、市を挙げてまちづくりに取り組んでいます。

市内全小中学校においても「まちづくり学習」に取り組んでいます。

この学習では自分たちでできることを考え、地域の方々と関わりながら、自分たちの考えたことを実現するために行動することを大切にしています。「できる」「できない」という結果を求めるのではなく、「やってみる」とことで見えてくる「なんとかなりそう」という手応えや「自分にもいいところがある」という自己肯定感を育んでいます。

各校での取組の一部を紹介します。  
・市役所関係課と一緒に未来のまち

武蔵村山支部長 赤坂 弘樹  
(武蔵村山市立雷塚小学校)

づくりを考える活動

- ・ 伝統文化であるお囃子などの体験
- ・ 村山かてうどんの手打ち体験
- ・ 小・中・高校生が語り合うまちづくりサミット

・ 商店街の新メニューの企画

・ 小・中学生が協力する地域清掃

・ 市を盛り上げる歌や動画の作成

・ 防災、福祉について考える活動

・ ゼロカーボンに向けての啓発活動

十一月八・九日に開催されたデエダラ祭りには、多くの子供たちが参加して日頃の活動の成果などを発表しました。今後も「まち」を舞台に子供たちによるたくさんのチャレンジを進めていきます。



デエダラ祭り

## 奥多摩町の紹介

奥多摩支部長 藤田 誠司  
(奥多摩町立古里小学校)

奥多摩町は、東京都の北西端に位置し、全域が秩父多摩甲斐国立公園に含まれ、東京の奥庭として親しまれています。登山、キャンプ、釣り、川遊びなど、週末を中心に多くの観光客で賑わいます。町では、少子高齢化による人口減少の対策として、移住・定住の積極的な受け入れを行い、子育てのため各種助成など、子育て支援推進事業に力を入れています。

町内には、小学校が二校（令和五年度に創立百五十周年を迎えました）、中学校が二校あります。全校がコミュニティ・スクールに指定され、保護者、地域住民と連携・協働し、地域とともにある学校づくりを推進しています。

奥多摩町の教育活動の特色として、ここでは二点、紹介させていただきます。まず、奥多摩の豊かな自然や歴史と文化を学ぶ、「奥多摩学習」が挙げられます。特産品であるワサビやシイタケの栽培やヤマメの飼育、奥多摩町に古くから伝わる独特な獅子舞をはじめとする伝統文化など、奥多摩町ならではの題材をテーマにして、子供たちが主体的に課題を設定し、探究する学習を進めています。各学校で奥多摩町の自然や地域人材との積極的な関わりを通して、ESD・SDGsの視点も関連付けながら各種体験活動を充実させ、児童の興味関心を高めるとともに、



奥多摩伝統の獅子舞を  
児童がアレンジして披露しています

郷土を大切に思い、地域に貢献しようとする子供の育成を図っています。二点目に、保育園・小学校・中学校との密な連携です。互いを認めることができる豊かな人間関係の育成を図るために、町内の小学校間での交流学習や校外学習、第四・五・六学年において、移動教室を合同で実施しています。また、スタートカリキュラムを基にした保育園との計画的な交流の実施、中学校の教員による出前授業や中学校体験の実施を通して連携を強化促進し、円滑な接続を図っています。

このように、奥多摩町だからこそできる学びを重視し、町全体が一体となり教育活動を実践しています。



## 自然豊かな日の出町

日の出町支部長 矢野 明德

(日の出町立本宿小学校)

西多摩郡日の出町は、昭和三十年西多摩郡大久野村と平井村が合併して日の出町が誕生し、同四十九年に町制施行された自治体です。大久野地区は、主に、ハイカーに人気の日出山（標高九〇二m）や、その下山ルートのある癒しの「つるつる温泉」、下水道整備で蘇った平井川沿いにある「さかな園」など自然豊かな地域です。

一方、平井地区は、広大な農地の一部に大型商業施設ができたり住宅が増えたりと、ここ十数年で大きく様変わりした文字通りの田園住宅地域です。また、平井祭で行われる、下平井の鳳凰の舞がユネスコ無形文化財の一つとして登録されました。

町内には、小学校三校、中学校二校の町立学校があります。今回は、小学校三校の紹介をさせていただきます。

各小学校とも、外部の方の力を借りた教育が盛んです。

まず、大久野小学校は、校庭芝生化が実施されている学校です。芝生の維持管理は、芝生管理ボランティアとして保護者や地域の方の協力をいただいています。そのおかげで、職員の負担が軽減されています。

平井小学校は、河川基金助成を受け学区の中央を流れる平井川に生息する

水生生物や野鳥を観察することを通して、自然に親しみ地域に関心をもつ児童の育成に励んでいます。その際、福生の自然環境アカデミーの方や地域の方に講師をお願いして、学びも豊かなものになっています。

本宿小学校では、三年生が理科と総合的な学習の時間を活用して、一人一人がカイコを育てています。教員が、カイコの生態に詳しい八王子で養蚕農家をされている方と協力し合ってカイコを育て、最後は紡いだ生糸でランブシェードを作っています。

今後も、地域の自然を活用した教育を推進していく予定です。



校舎から見た秋の校庭

## 大島支部の紹介

大島支部長 稲葉 真一郎

(大島町立つつじ小学校)

大島町の義務教育は、平成期以降大きな再編を経て現在の六校体制に至りました。現在、島の学校は統廃合により数が減っていますが、かつては各集落に小学校や中学校がありました。児童生徒数の減少により、平成十七年に元町・野増地区の小学校を統合してつばき小学校、岡田・泉津・北の山地区の小学校を統合してさくら小学校が開校。さらに平成二十一年には差木地・波浮地区の小学校を統合してつつじ小学校が誕生しました。中学校も同様に、北部・中部・南部の三地区に集約され、現在は小学校三校・中学校三校の計六校で義務教育を担っています。

この再編の目的は、単なる学校数削減ではなく、小中連携教育の強化です。特に南部地区では、つつじ小と第三中が隣接し、教員の交流や合同授業を通じて「中一ギャップ」を軽減する取組が進められています。北部地区のさくら小と第二中、中部地区のつばき小と第一中も、学習進度や生活習慣の接続を意識した教育課程を編成し、九年間を見通した指導を実践しています。

大島町は、目指す子供像として次の四点を掲げています。

一、「夢」の実現を求める子供

一、「命」を大切にすること  
一、「国際的視野」を持つて行動できる子供  
一、郷土大島を「誇り」とする子供

大島町教育施策大綱（三）より

こうした理念を基盤に、少人数教育の強みを生かしたきめ細やかな指導や、地域文化や自然を活かした体験学習などを行っています。近年は、ICTを活用した遠隔授業やオンライン交流も進み、都市部との教育格差を縮小する取組が強化されています。今後も、島ならではの教育活動を充実させていきます。



三原山から見た元町、海、空

令和6・7年度 中央区教育委員会研究奨励校

研究主題

## 子どものための校務 DX の推進 —クラウドの有効活用を通じて—

■ 予定実施月日 令和8年2月10日（火）14時—

■ 会場 中央区立月島第三小学校 体育館・各教室

■ 視点

- ・校務の効率化→教材準備や児童と直接ふれ合う時間をより多く確保する。
- ・情報の共有→いじめや問題行動の早期発見・早期対応を全教員で取り組む。

■ 取組 Google プラットフォームのフル活用

① 自校開発ソフトの試用

- ・教育計画 ・週案 ・出欠日計表 ・安全点検表 ・補教割り当て ・月一週一日予定
- ・週番表 ・日報（生活指導関係情報） ・水泳参加 ・個人面談日程調整

② 自校開発ソフトを区内小学校へ展開（モニター校）

③ 区 DX 担当セクションとの連携

■ 効果検証

① 校内教員アンケート

② 区内モニター校アンケート

③ ①と②を精査し、成果と課題を確認

■ 発表形態

- ・対面とオンラインのハイブリット
- ・自校開発ソフトに関する個別相談会

※授業公開はありません。

■ その他

- ・最終案内は年明け発出の予定です。



令和 6・7 年度 目黒区教育委員会人権教育推進園

## 人権教育実践報告会のご案内

### 研究主題

**自分が好き みんなも大好き ひがしのこ**  
～「自分の気持ち」も「相手の気持ち」も大切にする幼児の育成～

本園では、令和 6 年度から 2 年間、目黒区の人権教育推進園として『自分が好き みんなも大好き ひがしのこ～「自分の気持ち」も「相手の気持ち」も大切にする幼児の育成～』を研究主題に取り組んでいます。

幼児期には、自分の思いを伝える力や、相手の気持ちを想像し理解する力が、共に気持ちよく過ごすために欠かせません。豊かな保育環境と教師の援助を通して、幼児が自他の違いに気付き、他者を尊重する心を育むことを目指しています。

当日は、幼児が遊びの中で学ぶ姿をご覧いただけます。ご案内は 12：40 からですが、保育時間内（14：30 まで）はいつでも見学可能です。ぜひご参加ください。お申し込みは下記二次元コードよりお願いいたします。

【日時】 令和 8 年 1 月 16 日(金)  
12：40 から 16：30 まで（受付開始 12：30）  
（区内小中学校向けの案内は 13：30 で案内しています。）

【時程】 12:30 12:40 14:30 14:50 15:20 16:30

受付	公開保育	事例報告	協議会	講演
----	------	------	-----	----

【講演】 共立女子大学家政学部児童学科  
教授 田代 幸代 先生

### 目黒区立ひがしやま幼稚園

〒153-0043 東京都目黒区東山 3-24-2  
東急田園都市線 池尻大橋駅（東口） 徒歩 7 分  
電話：03-3791-4615 FAX：03-3791-4620  
E-mail：y-yama01@city.meguro.tokyo.jp

\* 参加をご希望の方は、  
右記二次元コードより  
お申し込みください。



令和 6・7 年度 町田市教育委員会研究指定校  
「魅力ある学校づくり」研究発表会の御案内

研究主題

自己効力感を高め、学び続ける生徒の育成  
～町二中の魅力をもつ授業、行事の工夫～

日時 令和 8 年 2 月 5 日（木） 受付開始 13時

内容 ○公開授業 13時25分～14時15分  
○研究発表等 14時30分～15時00分  
○講演 15時00分～16時00分



講演 NPO 法人 翔和学園長 伊 藤 寛 晃 先生

本校では、町田市教育委員会研究指定校として、2年間「自己効力感を高め、学び続ける生徒の育成～町二中の魅力をもつ授業、行事の工夫～」を主題に研究・研修を行いました。研究を行うにあたり、アンケートを実施したところ、生徒にとって町田二中が魅力の高い状態であることが分かった一方で、生徒の粘り強さと教員の授業力向上が課題として挙げられました。そこで、教員が生徒一人一人への理解を深め、特別支援教育の視点を踏まえた支援に取り組みました。同時に、外部講師として、翔和学園長伊藤寛晃先生を複数回招き、「ほめて認める指導」「一時一事の原則」「作業指示」をテーマに研修を行い、生徒がスムーズに活動に入ることができる指示の精査と自己効力感を高める声かけについて意識した生徒指導も行ってきました。

研究の成果を2月5日に発表いたします。多くの皆様のご参観をお待ちしております。



町田市立町田第二中学校 校長 高橋 健志  
〒194-0031 町田市南大谷 1-9-1  
小田急線町田駅徒歩 17 分 JR 横浜線町田駅徒歩 17 分  
HP : <https://machida.schoolweb.ne.jp/1320093>  
TEL : 042-722-1101 FAX : 042-721-4399  
問い合わせ 副校長 吉浦 和孝



令和 6・7 年度 東京都教育委員会授業改善推進拠点校

研究主題

「わかる・できる」喜びや楽しさを実感し主体的に学びに向かう児童の育成

～協働的な学びを通して～

令和8年2月13日発表

国分寺市立第二小学校 校長 小林 卓

## はじめに

本校児童は、令和 6 年度に行われた「全国学力・学習状況調査」の結果を見ると、全国や東京都と比べても学力的に高い傾向にあります。一方で、正答の理由を問われたりする問題においては、説明の仕方が分からなかったり、説明を省いてしまったりして、考えを文章化できない児童が多くいることが分かりました。そこで、本校の研究では、考えを伝え合い、共通点や相違点を考えて学習を深めたり、学習し、理解したことを文章や言葉でわかりやすく表現したりする「協働的な学び」を通して、児童が学ぶ喜びを感じ、主体的に学習に取り組むことができるようにしたいと考えました。

## 協働的な活動を取り入れた授業実践

### (1) 数学的な見方・考え方の明確化

その単元で押さえない「数学的な見方・考え方」を協働のキーワードとして位置付け、授業内で「共有ポイント」として取り上げました。

### (2) 場の設定の工夫

児童相互が自然な形で対話できるような場作りについて考えました。また、児童の状況に合わせて、柔軟に場を作り変えました。

### (3) 「振り返り」の再考

「振り返り」を「形成的評価の充実」「自己調整学習の習慣化」を目的とし、授業改善に役立てました。

## 教師の協働による授業改善



「児童の協働的な学びを促すためには、まず教師から」と考え、教師同士が協働的に自らの授業改善に取り組んでいきました。

### <学年を越えた授業交流グループ>

3～4 名で授業改善グループを作り、定期的にお互いの授業を見合うようにしました。OODA ループを作成し観察や分析を活かした授業改善に取り組みました。



### <対話的な学び合いの場>

学びを受け取るだけでなく、考えたことを伝え合うことで研究を活性化させました。

- ・ラウンドスタディ
- ・対話型 OJT

## おわりに

2 年間の研究を通して、児童も教師も協働的に学び合うことで、自ら進んで学びに向かう姿勢を培ってきました。若手教員も多い本校ですが、活発な対話を通してすべての教員が日々授業改善を行っていくことができるよう、今後も研究を続けてまいります。

## ～ 第3回支部長会報告 ～

第3回支部長会を11月14日（金）に東京ガーデンパレスで開催しました。対面とオンラインのハイブリッド形式で開催しました。対面・オンライン合わせて23名の支部長の皆様にご参会いただきました。コロナ禍あけ最大の人数です。大勢のご参加ありがとうございました。



各部からの報告



理事長あいさつ



各支部より（会場）



オンラインで参加の皆様



各支部より（オンライン）



各支部より（会場）



## ～ 新年祝賀会にむけて ～

支部長会終了後は部屋を移動して、新年祝賀会の料理の試食を兼ねた支部長を慰労する会を開きました。料理はとても美味しく、大学時代の思い出話から今日的な教育の話題に花を咲かせ、盛会のうちに終了することができました。新年祝賀会も楽しみです。



乾杯



開式の挨拶



祝賀会の料理



祝賀会の料理



懇談



懇談

## 日々、選択

豊島区立仰高小学校 副校長 大波 史子

副校長として、一年と半年が過ぎました。毎日、どこかで、だれかと、何かをしているはずなのに、ふと振り返ると、「あれ？今日一日、わたしは何をしたのだった？」と思うことがいまだにあります。終わったと思うそばからなぜか出現するナニか、達。それらに追われてしまいがちですが、ご指導いただいた校長先生の言葉を胸に、日々、職務に励んでいます。

## ① 情報通であれ

何事も知っているって強い。児童や保護者に関すること、教職員のこと、地域のことなど、「もう少し早く知っていたら別な結果になっていたかもしれない」と思うことがあります。声なき声を聴く姿勢をもつこと、不満要素などの原因を突き止め、対策を考え、すぐに動くこと、そして次に繋げることを大切にしています。また、今後は根拠となる教育に関する最新情報や都内の先進校の取り組みなども勉強していく必要性を感じています。

## ② タフであれ

辞書に「タフ」は「非常に体力・精神力があつて、少しぐらいのことではへこたれないさま」とあります。学校

がタフであるためにも、自分自身がタフでありたいと、自己管理能力を高め、自立的に仕事をこなそうと心掛けています。心も身体も労われるのは自分だけ。意欲ややる気を維持するためにもパソコンの前での仕事から抜け出し、教室や校庭で活動する児童の様子を見たり、話しかけたりと終業後は自分時間を大切に推し活を楽しんでいます。

## ③ 笑顔であれ

本校には、毎朝、笑顔でそして大きな声で「おはようございます。」と勤務を開始する教員がいます。この方から、一方が笑顔になると相手にそれが伝染し、結果として互いに心地よくよい人間関係を築くことができることを学びました。色々なことがある学校生活です。まずは、笑顔で、伝えるより傾聴を大切に、誠実に行動しています。

「副校長一年目は初心者、二年目は中堅、三年目はベテラン」

不安なことも多くあり、まだまだですが、今後も校長先生に相談しながら、自分に何ができるか、何をすべきかを考え、一つ一つ丁寧に進みます。

「地域とともにある学校づくり」、  
「学校を核とした地域づくり」

清瀬市立芝山小学校 副校長 川島 直人

本市小学校副校長として、市内では初のコミュニティ・スクールの立ち上げに携わりました。着任以来七年間、地域の方々との信頼関係の構築や、学校運営協議会の発足、様々な協働の取組推進に力を尽くしてきました。

地域コーディネーターは、着任時のPTA会長と「おやじ会」代表です。「学校と保護者・地域の方々が連携する『チーム学校』」を一緒に作りませんか。」と投げかけたことが始まりでした。各行事等のお手伝いを始め、授業等の学習支援、環境整備や修繕、学校内外での安全見守り、居場所づくりの取組など、学校への支援の輪が広がっていきました。また、防災キャンプなどの協働実施の積み重ねから、次第に「こんなことをしたい。」と地域の方から声が上がりが始め、各地域団体等参加の秋祭りや発表会、親子料理教室、国際交流会など、多様な体験活動等が実践されるようになりました。このよう

な支援や体験活動等の充実により、子供たちに「できた。分かった。」との思いをもたせることが、学校経営方針「児童の自己肯定感の育成」の具現化につながると考えました。

協働の基盤として、まずは学校に気軽に来てもらえるよう、地域の方対象の様々な講座を企画しました。初めは有志教員が講師となり、「陶芸体験」「使ってみようタブレット端末」「特別支援教室ってどんなところ？」などの講座を行いました。教員・保護者混成の「大人バンド」の活動などもありました。（演奏会では大いに盛り上がりました。）やがて、地域の方が講師となる講座も開催されるようになりました。本市が掲げる「子供が育つ 市民が育つ まちも育つ 清瀬の教育」の基本理念の実現に、少しは寄与できたのではないかな、と思っています。

今年度、同じ市内の本校に異動となりました。本校でもまた、コミュニティ・スクール発足に携わることとなりました。同じ市内でも環境や地域性、人的・物的な資源などは大きく違うもののだな、と改めて感じています。本校の既存の取組を軸に、出会いやつながりを大切にしながら、「『チーム学校』の基盤づくりに取り組んでいこうと思います。」「地域とともにある学校づくり」、さらに「学校を核とした地域づくり」に邁進する所存です。



## 子供とともに問い続けられる 教師でありたい

大田区立嶺町小学校 教諭 松葉 広都

東京学芸大学で過ごした日々は、私の教員人生の目標を創ってくれていました。『子供とともに歩み、問い続ける教師』この目標は、大学時代に得た知識と経験によってのものです。

私は東京学芸大学で理科選修に所属し、在学中は教科そのものに深く向き合う日々を送りました。地層の研究に取り組むことで、世界の成り立ちを自らの手で確かめ、未知の世界を明らかにしていくことに楽しさを感じていました。卒業研究に勤しむ中で、「問いをもち、探究することの楽しさ」を実感しました。『子供が身近な自然現象に興味をもち、その事象に対して疑問をもったときに学びは始まっている』ある本で出会ったこの言葉は「問いをもつ」ことの大切さをより確固たるものとして私の心の中に刻んでくれました。

実際に現場に立つてみると、授業をする難しさや教材と向き合う大切さを感じました。最初は、授業が思うようにならず、時間内に内容が終わらなかったり、分かりにくい授業の流れで進めてしまっていたりするなどたくさん課題がありました。子供も授業の内容が理解できず、授業のとき険しい

顔で授業を受けている姿が多く見られました。興味をもたせるはずが、興味を失わせてしまっている事実、何度心も折れかけました。しかし、そんな中、周りの先生が合間をぬって授業を見に来て、助言をくださったり、一緒に授業を考えてくださったりしました。それにより、徐々に授業が改善されていきました。先日、理科の授業をした時には、子供一人一人が課題に向き合っており、調べている姿を見ることができました。自分の授業力を問い続け、努力を重ねてきた成果を子供の姿に見ることができ、嬉しさを感じました。

現在は四年生の担任として、子供たちに更なる成長を促すべく、毎日教材研究を行っています。そして、この二月には区教研の理科授業者として授業を公開する予定です。学芸大で培った探究の姿勢や先輩方から教えていただいた身に付けた授業力をもとに、子供が主体的に考え、子供同士が学びを深める授業を目指して準備を進めています。

これからも、子供とともに歩み、自分にも子供にも問い続ける教師でありたいと思います。

## 児童に寄り添う伴走者として

昭島市立武蔵野小学校 教諭 吉村 優希

私の教員生活のスタートは、育休代替教員としてでした。教育実習でお世話になった学校に着任し、二年生の担任となりました。毎日子どもたちから「先生」と呼ばれ、始めは嬉しさでいっぱいでしたが、すぐに責任感が押し寄せてきました。教員は授業の反省を次に生かすことができませんが、子どもたちは同じ授業を何度も受けることはありません。授業準備に手を抜かず、授業を工夫することが大切であると学びました。また、責任感や焦りから児童を叱責してしまい、信頼関係が築けないこともありました。厳しい指導は誰のためにもならないと学びました。

識しているのは、保護者や児童との信頼関係の構築です。児童の成長を支えるためには、教員が保護者と共に、児童の伴走者であることが大切だと思います。児童と共にゴールを定め、その達成に向けて共に取り組む姿勢が、保護者からの信頼にもつながります。時に立ち止まりそうになる児童に寄り添い、諦めずに走り続けることができるように声を掛け、支え続けることが伴走者としての教員の役割なのではないでしょうか。

二年目は、同じ学校で時間講師として勤務しました。二年生の算数少人数、三年生の図工、教務主任のクラスの理科など、幅広く担当しました。立場が変わると見え方も変わり、講師の先生方の効率の良い授業準備や、専科として毎時間違うクラスで授業をする大変さを目の当たりにしました。講師として勤務をしながら採用試験を受け、翌年に現在の昭島市立武蔵野小学校に着任しました。

そのためにも、保護者に対して学校での様子や指導について報告するだけでなく、これからどう支援していくのかを伝え、共に考えるようにしています。家庭と学校が一体となって支援する関係づくりを、年度始めから丁寧に行っています。

また、児童にとっても、困った時に相談しやすい関係性を築くことで、ゴールに向かって走り続けることができるようにしています。

これから、保護者との連携を密に図り、児童の成長に寄り添う良き伴走者として、児童と共に走り続けたいと思います。



本部だより

会費納入のお願い

会計部長 關 口 泰 正

日頃より、会計部の活動にご協力いただき、ありがとうございます。

会計部では九月末までの収支を中間決算としてまとめました。

九月末現在で、正会員費は二百二十八名の方から、賛助会員費は九十七名の方から、終身会員は七名の方から納入をいただきました。また事業収益として、獅子の代金が五百九十七冊分、納入されました。納入していただいた支部の支部長の皆様、会計担当の皆様には御礼申し上げます。

支出としては、公益事業として主に広報誌「學藝」の発行、獅子・子獅子の発行、ホームページのサイト運営費等の費用がありました。

各支部の集まりの様子を伺い、盛り上がっている様子が伝わってきています。会費の納入につきましても、各支部で進めていただき、早めの納入への御協力をお願いいたします。

皆様の会費が充実した研修会や講演会、会員同士の親睦を深める機会などの活動へとつながります。

今後とも皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

令和七年 新年祝賀会

総務部長 佐 野 篤

令和七年十一月十四日（金）に、第三回支部長会を東京ガーデンパレスの天空の間に、対面とオンラインのハイブリッドで開催しました。八名の支部長に会場へご参集いただき、十五名の支部長にオンラインで参加いただきました。これまでに最多の支部長にご参加いただいた支部長会となりました。

支部長会終了後は、隣の部屋に移動して、新年祝賀会の料理の試食を兼ねた支部長の皆様を慰労する会を行いました。幼稚園、小学校、中学校、高等学校、そして、大学からは鈴木聡副学長が参加されました。料理はとても美味しく、お酒も入り、昔話から今日の話題まで盛り上がり、みせた会となりました。

さて、令和八年の新年祝賀会は、一月二十五日（日）同ホテルの高千穂の間で開催いたします。昨年は、総計百二十七名の申込みがありましたが、今年度はそれを超える百五十名を想定しております。本部では、更にそれを超える嬉しい悲鳴が出ればと考えています。（申し込みは既に終了しております。人数については現在集約中です。）

多くの同窓生が一同に介し、同窓生としての繋がりを強く意識できる新年祝賀会となることを心から願っています。

研修部活動報告

研修部長 西 田 香

研修部の活動に、日頃よりご協力をお願いありがとうございます。

◆面接研修会

九月七日に、茅原理事長の講演に続いて面接研修（全日）を実施いたしました。受講生が四十二名と激増し、うれしい悲鳴を上げましたが、応援として十六名の校長先生方にご参加いただきました。心より感謝申し上げます。

受講生の内訳は、校長選考三十一名、A選考五名、B選考五名、C選考一名でした。一人でも多くの合格者が出ることを願っての、大変に熱の入ったご指導をありがとうございました。

◆論文研修会（主任教諭選考）

令和八年二月七日に、新宿区立市谷小学校において、主任教諭選考対象の研修会を行い、三月末までに論文指導（上限二回）を実施します。申込は、獅子第四十六集の表紙裏のQRコードからお願いいたします。

参加費は会員・会員外共に三〇〇〇円です。主任教諭選考を考えている教諭の皆様にお声掛けをお願いいたします。

◆「獅子」の編集・送付

獅子第四十七集の編集作業に取り組み始めました。新しい情報なども加え、令和八年三月中旬には、各支部長の所属校宛に送付いたします。ぜひ、ご活用ください。



管理職等名簿の準備について

調査部長 藤 山 由 仁

皆様の御協力のおかげをもちまして、昨年十月に「令和七年度管理職等名簿」が完成し、学芸大学同窓会ホームページ上にPDFで掲載することができました。いつも調査部にご協力くださり、心より感謝申し上げます。

今後の作業ですが、令和八年三月をめどに、各支部長宛に最新の支部の名簿をメールで送信する予定です。四月から令和八年度の「管理職等名簿」を作成する際、これを修正して御提出いただければ、作業も容易になると思います。新支部長への引き継ぎも含めて、どうぞよろしくお願い申し上げます。

その前に新支部長と名簿作成担当者を決めて、調査部に送信していただく作業がございます。（三月二十日（金）までに）詳細は同窓会ホームページの支部長会資料を御覧ください。

また、支部長の皆様に特にお願いしたいのは、終身会員の名簿の確認・点検です。誠に申し上げにくいのですが、28卒以前の皆様は、御高齢で物故者や御逝去、御不明の方もおられます。「その他」の欄に御逝去の年を記載し、次の年にはお名前を名簿から割愛していく作業が必要となります。

終身会員の登録の仕方は、希望者が支部長から申込書を受取り、御自身で手続きをする流れになります。詳しくは管理職名簿の巻末やHPに掲載しています。終身会員を希望される方は所属支部に連絡を取り御相談ください。





# 我らのキャンパス

## ～ 第73回 小金井祭 ～

11月1日（土）から3日（月）までの3日間、小金井祭が開催されました。

今年のテーマは「彩」（いろどり）。学生一人一人、そして来場者の個性が、それぞれの色となって小金井祭を彩ってほしいという願いが込められています。

さすが教員養成大学の学園祭。ウッドデッキでのイベントには子供たちが大勢集まっていました。バルーンアートやヨーヨー釣りなど子供たちが喜ぶお店もたくさんありました。コロナ禍が過ぎ、模擬店も年々盛り上がりを見せ、呼び込みの大きな声が響いていました。

おまけは現在の国分寺駅北口です。終身会員の皆様が通ったお店はほとんど残っていません。



ウッドデッキでのイベント



今年のテーマは「彩」



模擬店



バルーンアートやヨーヨー釣り



国分寺駅北口



呼び込み